

令和3年度 第3回学校運営協議会記録

1. 日 時 令和4年2月22日(火) 15時00分～16時00分
2. 場 所 本校校長室
3. 出席者 学校運営協議会委員(出席5名)
・寺脇 久人 ・戸堂 耕造 ・細越 浩嗣
・中谷 正彦 ・山口 裕通
4. 報 告 協議に先立って、
「令和3年度学校評価」
「令和4年度学校経営計画」、
「授業体験・クラブ体験・学校説明会」、
「令和3年度進路状況」、
「生徒状況」
「PTA活動」
「新型コロナウイルス感染症への対応およびICT整備の進捗状況」
等の報告を行いました。

4. 協議概要 以下、協議において出席委員から出された主な意見等です。

(令和3年度学校評価について)

および

(令和4年度学校経営計画について)

- 制約が多い中で、工夫しながら、実施可能な行事を何とか実施していただいたのはたいへん良かった。苦労も多かったと察するところであり、感謝したい。

→ 3月6日まで蔓延防止が延長される現状だが、大阪府のガイドラインに沿って感染対策をしながら、今後も生徒に充実した高校生活を提供するよう努力は続けていく。

- 学校評価での指標にも使っている「学校教育自己診断」のアンケートは、どのような方法で実施しているのか。

→ 生徒対象のものは、昨年度まで質問項目を印刷したマークシートを配付して、教室でマークしてもらっていたが、今年度からは、新たに配付されたChromebookでGoogle classroomを使い、回答してもらった。Chromebookを持ってくるのを忘れた生徒にはスマートフォンを使ってQRコードで回答ページに入ってもら

った。

保護者対象のアンケートも、昨年度までは生徒同様に質問項目を印刷したマークシートを配布して、ご家庭で回答していただき、シートを封筒に入れて、生徒を通じて担任が回収していたが、今年度からは、QRコードを印刷した用紙を配布し、スマートフォン等で回答ページにアクセスし、回答してもらった。

○ 分掌の再編・統合についてはうまく機能しているか。

→ 年度前半は職務内容の引き継ぎと整理にあたった。後半は情報共有の流れも整い、調整手続きは随時必要であったが、統合された分掌の業務もスムーズに行うことができた。

(体験授業・クラブ体験・学校説明会について)

○ 昨年に続き、今年度もクラブの入部率が低くなっているようだが。

→ クラブ体験する時期に休校が断続的に続き、入部につなげられなかった。改めて入部を働きかける機会を作ったが、コロナ禍以前の水準には戻せていない。1年生入学当初の入部時期を逃した影響は今年度も大きい。また、クラブ活動における感染防止のための様々な制約によって、各クラブの魅力が伝わりにくくなっていることも一因ではないか。

○ 中学生に向けた広報活動などもコロナの影響を受けているのか。

→ 中学生とその保護者対象の学校説明会、体験入学、クラブ体験等の参加者の合計は、のべ710名で、コロナ禍においても一定の水準を維持している。高石高校に対する関心の高さを示していると考えている。中学校との教員間の交流や出前授業の実施なども、感染対策をしながら今年度は活性化させた。

(令和3年度進路状況について)

○ 昨年度(令和2年度)は、早い段階で進路を決定してしまいたいと考える保護者・生徒が多くなる傾向が顕著になっているとの報告を受けたが、今年度もその傾向は変わらないか。

→ 今年度については、一般入試で勝負する生徒が想定以上に増えた。昨年度は、コロナの影響で大学入試がどのような形態で実施されるか、さらには予定通り実施されるのか、というレベルまで見通しが立たない状況だったが、今年度は、そこまでの不安を持たず

に受験に臨むことができたのではないかと。いずれにせよ、腰を据えて年明けの一般入試までチャレンジする生徒を、しっかり支援する体制を維持したい。

(生徒状況について)

○ 現在の高校生はコロナ禍で学校生活に制約が多く、気の毒な状況だと思うが、高石高校ではどうか。

→ 本校においても、感染対策で一定の制約の下での学校生活となっており、それがストレスになっている生徒も少なくないと考えている。家庭での生活も含め、生活リズムを崩す生徒が増えている面もある。生活面での指導も注力したい。

○ コロナのために、自由にコミュニケーションを取ることができない状況が長期間続いている。ストレスや悩みを抱え込んでいる生徒も少なくないのではないかと。生徒の悩みを聞く機会を設けることはできないか。

→ 現在も、担任の他、授業担当の教員や、教育相談担当の教員、保健室の養護教諭やクラブ顧問などが、生徒の相談相手となっている。また、学校外の立場であるスクールカウンセラーに相談する機会も活用されている。今後できることとしては、相談しやすい環境を作り、教育相談担当教員やスクールカウンセラーに相談する機会(時間設定)があることをさらに広く周知することなどがあげられる。

(PTA 活動について)

○ コロナ以降、これまで実施してきた PTA 活動が行えていない。活動の継続性を考えても問題が出てきている。もっと学校の活動に参加したいという保護者は多いが、次年度も正常な PTA 活動は難しいか。

→ コロナの感染拡大状況に左右されることではあるが、大阪府の感染拡大防止のガイドラインは、現状では次年度も大きく変わることはないかと推測される。ただ、PTA 活動実施のルール・基準を提示して、その線で企画を進めていただくということではないかと。学校としても、ひとつの行事について、その実施の可否、実施の形態等について、感染状況を見ながら検討している状況であり、行事等の直前にならないと確定できないこともある。ご迷惑をおかけすることもあるかもしれないが、今後も協力体制を整えたい。

(新型コロナウイルス感染症への対応および ICT 整備の進捗状況)

- 今年に入って1月に感染者が増加したようだが、その際、オンライン学習にスムーズに移行できたのか。

→ 昨年11月から、Chromebookを使った授業動画のアーカイブ化や配信の試行をし、一部の登校できない生徒にオンライン授業の実施を行っていた。年明けのコロナ感染急拡大時には、濃厚接触者とされて登校できない生徒が多数発生し、ほぼすべてのクラスで、教室での授業をリアルタイムで配信する必要が生じ、感染ピーク時はたいへんではあったが、何とか日々の授業の配信を支援する体制を整えることができた。学級閉鎖になったクラスへのオンライン授業(当該クラスの生徒は全員自宅)も無事実施することができた。コロナの副産物として、一気にICTの活用は進んだという面はある。始業式・終業式なども生徒が各教室にいる状態で、オンラインで実施するようになった。今後は感染状況が改善されない中でも、これまで体育館で集合開催していた各種講演会などを、オンラインで実施することが可能だ。